

すぎるため、実体験に乏しいのにもかかわらず、刺激を求めようとしないう人が増えているように思えてなりません。

編集長 伸び悩んだり、スランプに陥った若者に対して、アドバイスをしたりすることはありますか。

山本 悩んでいる人がいたら、飲みに誘ったりして、イロイロな話をするようにしています。もちろん、あまりにもヤル気を失ってしまった若者に対しては、きびしく指摘することもあります。自由に作品をつくることと、自堕落になることは違いますから。また、月に1回はみんなが集まる機会を設けるようにしています。やはり頑張っている仲間の話はいいい意味で刺激になりますから。とはいえ、基本的に私はマンガについてはアレコレいいません。それぞれの個性を最大限に生かしてほしいと思っっているからです。ですが、プロの意見は大切なので、実際に編集者やマンガ家、マンガ原作者の方たちとの出会う機会を設けたりもしています。

編集長 トキワ荘プロジェクトはこれからも拡大していくのでしょうか。

山本 今はようやくやく仕組みが完成したところですが、これからはドンド

ン広げていけると思っています。うまくいけば、6年後には10000人の若者に、サービスを提供できるようになると見えています。また、都内の社員寮や廃校、ビジネスホテルなどを有効に利用して、若者の住居やアートリエとして活用したいとも考えています。



ニート作家の誕生で可能性はさらに広がった

編集長 トキワ荘プロジェクト以外の取り組みについてはどうですか。

山本 「神保町小説アカデミー」というライティング講座なども開催しています。この講座にはニートやフリーターをはじめ、さまざまな問題を抱えた人たちが参加しています。

先日、そのライティング講座からひとりの作家が誕生しました。白井勝美さんという男性で、家庭内暴力の影響で子どもの頃から不登校、引きこもり、薬物依存、自殺未遂といった経歴を経てきた方です。この人の文章は実に素直で、読者に訴えかけるものがありました。さっそく、出版社に売り込んでみたところ、今年の1月に『絶望男』というタイトルで発売されたのです。白井さんはニートや引きこもりだったって、作家に

なれるということを見事に証明してくれました。これは本当に嬉しかったですね。

また、この7月には元引きこもりの夏目涼介さんが書いた本も発行される予定です。

編集長 インターネットラジオ「オールニートニッポン」もユニークな取り組みですね。

山本 オールニートニッポンは、ニートのためのインターネットラジオを、コンセプトにして立ち上げたものです。そのため、スタッフの8割以上がニートや元引きこもりです。番組もテーマもニート、フリーター、引きこもり、不登校、いじめ、自殺、プレカリアート、ワーキングプア、

若年ホームレス、結婚、家族、仕事、人生、希望、依存、生きづらさといった具合に、ニートや引きこもりをつづけている人たちに向けて発信したいもの、共感してほしいものをチョイスしています。放送は週に1回ですが、月1回はイベントも開催しています。この放送を通して、ニートや引きこもりの人たちには、社会での活躍の場を見つけてほしいですし、一般のリリスナーの方には、少しでもニートや引きこもりの現状を知ってもらいたいと考えています。

編集長 これからも自立したNPOとして、社会をリードしていくってください。本日はありがとうございます。

●ニート作家の記念すべきデビュー作
絶望男
46歳、ニート、障がい者の人生
白井勝美著
サンクチュアリ出版
1260円(税込)

ニート作家、白井勝美氏のデビュー作。ページを開くと、家庭内暴力、イジメ、不登校、引きこもり、リストカット、自殺未遂といった内容がぎっしりに綴られている。フツーに考えれば、辛く悲しい内容になるはずだが、本書はそのあたりがひと味違う。これほどまでにリアルで、悲痛な内容なのににもかかわらず、読み終わった後に悲壮感はほとんど残らないのだ。もちろん、白井氏の淡々とした語り口に救われている部分も大きい。それ以上に「こんな俺でも生きる」という言葉の力強さに救われている。ニート作家のデビュー作にふさわしい一冊である。



〈編集長口評〉地道な努力が信頼を勝ち得ることができている。コトバノアトリエの活動はまさにそのことを証明している。これからの社会を変えるために地道な活動をつづけてほしいものだ。